

令和 8 年 7 月 3 1 日

調 査 報 告 書	(会派の場合) 尚政会 会派の名称			
	代表者氏名 笠原 俊一			
	(会派以外の場合) 議 員 氏 名			
参加議員	笠原 俊一 議員		伊東 圭介 議員	
	土佐 洋子 議員		荒井 直彦 議員	
	議員		議員	
	議員		議員	
日 程	令和 8 年 7 月 7 日 (火) ～ 令和 8 年 7 月 1 0 日 (金)			
視 察 先	(1) 沖縄県・名桜大学			
	(2) 沖縄県・エナジックスポーツ高等学院			
	(3) 沖縄県・北谷町			
視察目的 (項目)	(1) 在学大学生の生徒数と概要について			
	(2) 小学校の廃校の跡地を再整備された学校について			
	(3) デジタル回覧板について			
【調査内容・概要】				
1. 名桜大学について 面談者：東恩納盛雄教授（国際観光産業学科担当） * 学生全体では 約 2,500 名。 （教授の学科は 120 名） * 学生の中では、葉山中学校出身者が 3 名在籍。2025 年 4 月、入学男子 1 名 2026 年 4 月入学 2 名 女子） * 在籍の学生の内、2025 年の男子と 2026 年の女子 1 名は、入学前に事前に情報 を得ていて、事前のオープンキャンパス等、荒井議員の知人の教授を紹介して いる。また 入学後には、教授室に挨拶に行って、教授にいろいろ相談に乗っ て頂いている。 * 当日は、教授の都合で、午後 1：00 と指定されていたので 名護の大学ま で、那覇空港から所要時間 3 時間要する為、前泊して沖縄入りした。 * 余談：2026 年 4 月の入学した女子 2 名は 同じ葉山中学校出身であるが高校 が別だった為、4 月 6 日の入学式までわからず、当日、会場であって、お互い にびっくりした!?とお話を伺った。				

＊個人的な思いは、沖縄の大学に、葉山中学校出身の子供たちが入学をしている事をどこの場面で、どのような方法や手段でか分からないが、今回の視察では何か役割があるように思っている。

2. エナジックスポーツ高等学院（全日制課程）

学校法人大城学園 大城博成 理事長

面談者：大城まち子学院長・大城きょう子（陸上部担当）

： エナジックインターナショナル スポーツ部門顧問 当山 勝正

経過）そもそもの学院の設立前はゴルフアカデミーを立ち上げから始まる
2020年4月に正式に全日制課程の高等学院を開校

詳細はパンフレット参照



＊現在は5種目（ボウリング、陸上、野球、ゴルフ、卓球）を中心に構成されているが、ラグビーにも興味をもっている。

＊現在の校舎は、廃校の小学校の跡地を再整備し利用しているが、野球場に関しては、新しく新設計画があり、進んでいると伺った。

＊陸上部の出身者には 箱根駅伝に走れる選手が誕生している。（國學院大学）

＊ゴルフ部の出身者には、プロゴルファーも誕生している。

＊野球部の出身者には、プロ野球の選手も誕生している。

残念ながら、夏の甲子園には、出場していない（春の選抜に出場している）。

3. 沖縄県・北谷町 面談者：総務部 基地安全課 課長 比嘉 敬文

：住民安全係長 山川 直志、主事 宮城 壱成

以下、質問及び回答

1 回覧について

(1) 対象書類 回覧している書類の種類

→現在の紙媒体による回覧は、大きく行政回覧と自治会回覧に分かれている。行政回覧については、「広報ちゃたん」や「議会だより」のほか、各課からのお知らせ、各種イベント案内等を回覧している。自治会回覧については、各行政区における祭りや子ども会活動、防災訓練等の地域行事に関するお知らせや、自治会運営に関する連絡事項等を回覧している。

CHIKUWA（自治会連絡網アプリ）を活用した電子回覧板は令和6年10月に運用を開始したところであり、今後は現在紙媒体で回覧している行政からのお知らせや自治会からのお知らせ、防災情報、イベント案内等について、順次電子回覧板での配信を進めていきたいと考えている。

なお、電子回覧板については現在運用開始段階であり、対象書類の詳細な区分については自治会と協議しながら整備を進めている段階。

(2) 回覧頻度 回覧をしている頻度について

→現在、自治会への説明や登録促進を進めている段階であるため、定められた回覧頻度はまだ設定していない。今後、自治会と協議しながら運用ルールを整備していく予定。

2 電子回覧への切り替えについて

(1) 経緯（CHIKUWA 導入の経緯）

→防災や防犯に関する情報配信についても、防災行政無線、公式ホームページ、公式 LINE、電話等を活用していたが、それぞれのツールごとに配信設定が必要であり、情報発信に人手や時間を要していた。さらに、情報が行き届いていない住民や、日本語が分からない外国人住民・観光客等も多く、要援護者への連絡については福祉部署が一件ずつ電話連絡を行うなど、情報伝達方法に課題があった。

そこで、防災情報をはじめとする行政情報を一斉配信できるシステムの導入を検討したところ、災害情報や町の行政情報等の多種多様な情報配信が可能であり、多言語対応や一斉配信機能を備えたシステムがあることが分かった。

これらの課題を解決するため、令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金（TYPE1）を活用し、令和6年10月に、一斉情報配信システム、住民向け情報配信アプリ「ちゃたんコネクト」、学校保護者連絡網アプリ「すぐーる」、自治会連

絡網アプリ「CHIKUWA」の4サービスを一体的に導入した。

これにより、多くの住民や観光客等へ迅速に緊急情報を配信できる体制を構築するとともに、住民、学校（保護者）、自治会それぞれの連絡網を活用した情報伝達が可能となり、緊急時の迅速な避難行動や情報共有につながる環境を整備した。

また、少子高齢化や多国籍化の進行により、自治会と住民との連絡が困難になっていたことや、自治会の連絡が紙媒体や電話を中心としたアナログな手法で行われており、時間やコストがかかっていたことから、自治会における情報共有や回覧業務の効率化も期待している。

(2)現在の状況

【一斉情報配信システム】

防災情報・Jアラート連携で活用中。LINE 等への一斉配信が実現できている。

【すぐーる（学校・保護者）】

町内全小中学校に導入し、ほぼすべての保護者が登録し活発に活用されている。

【ちやたんコネクト（住民向け）】

導入済みですが、普及はまだ途中の段階。

【CHIKUWA（自治会向け）】

導入済みですが本格活用はこれから。紙回覧との切替方針は自治会と協議中。

(3)課題

→高齢者やデジタルデバйдの観点から完全電子化には課題があると認識している。本町東部地域は高齢化率が高く、同様の課題を抱えている。

また、特に住民向けアプリ（ちやたんコネクト）及び CHIKUWA については、既に広く普及している LINE との住み分けが大きな課題であると認識している。住民にとってはすでに使い慣れた LINE があるため、新たなアプリをインストールしてもらうことへのハードルが高い状況。

(4)今後の具体的なスケジュール

→完全電子化の時期は、自治会の状況・デジタルデバйд解消の進捗を見ながら判断していく方針で、現時点では具体的な移行時期は定めていない。

3 CHIKUWAについて

(1) 電子回覧の方法（選定に至った経緯）

→本事業では、一斉情報配信システム・ちやたんコネクト・すぐーる・CHIKUWA の4サービスを一体のパッケージとして調達した。選定にあたっては、岐阜県神戸町（人口18,304人）が同様のシステムで全庁一体の情報配信DXを実現し、アプリ登録者数が2020年の66人から2023年に3,029人へと大幅に増加した先行事例を参考モデルとして採用している。また、一斉情報配信システムとの連動によるJアラート・気象警報の自動受を重視した点が、LINE単独での電子回覧と

の大きな差別化点である。

(2) コスト

→導入にあたってはデジタル田園都市国家構想交付金（TYPE1）を活用しており、費用は町が負担している。自治会への費用負担は求めている。

- ・ CHIKUWA 単体の初期導入費：440 千円（令和 6 年度）
- ・ 4 サービス合算の月額利用料：104,500 円／月（令和 7 年 2 月～令和 9 年 3 月・26 か月 計 2,717 千円）

※月額利用料は 4 サービス合算のため、CHIKUWA 単体の金額は分離していない。

* デジタル回覧板については進めているが、もう少し時間がかかる。

* 今回の視察では、私どもから質問をする事より、先方からの質問や他の事での質問が多くあった。

* デジタル回覧版の稼働がはじまったら、ご連絡を頂けるとお話して別れた。

記 荒井 直彦

◎名桜大学（沖縄県名護市）

・地域に開かれた大学づくりと自治体との連携について

1 視察目的

少子高齢化や人口減少が進む中、大学が地域課題の解決や人材育成、地域活性化に果たす役割はますます重要となっている。

名桜大学は、公立大学として沖縄県北部 12 市町村との連携を基盤に教育・研究だけでなく、地域貢献や産官学連携を積極的に推進している。今回は、その取り組み内容を学び、本町における教育・地域づくり・人材育成施策への活用を模索することを目的とした。

ご説明していただいたのは、国際学部 国際観光産業学科 教授の東恩納 盛雄さんでした。先生は、沖縄県の観光施策に関する審議会の座長を務めるなど幅広くご活躍されている。来年 2 月から課税予定の沖縄県「宿泊税」導入（定率制 2 %）に至る裏話なども伺い、大変有意義な時間となった。また、名桜大学には、現在葉山町出身の学生が 3 名在学中（人間健康学科）とのこと。

2 視察内容

名桜大学では、「地域に開かれた大学」を基本理念に掲げ、地域連携機構を中心として自治体や企業、医療機関、地域団体との連携を進めている。地域連携機構は、教育研究成果を地域へ還元するとともに、北部 12 市町村との双方向の連携による地域課題の解決を推進している。

主な取り組みは、以下の通り。

- ・ 地域住民を対象とした公開講座・出前講座の実施
- ・ 学生による地域活動やボランティア活動への参加

- ・自治体との包括連携協定による共同事業
- ・健康長寿や観光、スポーツ、看護・介護など地域課題に即した研究
- ・産官学連携による人材育成と地域振興

また、自治体や企業との包括連携協定を積極的に締結し、地域課題の解決や人材育成に取り組んでいることが特徴であり、近年も自治体や医療機関との連携を拡大している。

3 所感

名桜大学（学生数 2,500 人）の最大の特徴は、「大学が地域にある」のではなく、「地域の中に大学がある」という考え方を徹底している点であると感じた。

教育・研究活動が地域課題の解決へ直結しており、学生も地域で学び、地域で活動することで実践力を身に付けている。1 年前に開業した「ジャングリア沖縄」でも多くの学生たちが貴重な人材としてアルバイトしているとのことだ。

また、大学が自治体との連携窓口を一本化しているため、行政側も相談しやすく継続的な協力体制が構築されていた。

本町においても校舎は無いものの、各大学のヨット部の学生が年間を通して滞在していることから大学や専門機関との連携をより積極的に進めることで子育て支援、健康づくり、防災、環境、観光など様々な行政課題の解決につながる可能性を感じた。



◎エナジックスports高等学院（沖縄県名護市）

1 視察目的

スポーツを核とした特色ある学校運営や教育手法、競技力向上と人間形成を両立する教育方針について調査するとともに、ICT 教育やキャリア教育の取り組みを学び、葉山町の教育行政及び部活動改革、廃校の利活用の参考とするため視察を実施した。

2 視察概要

エナジックスports高等学院は、「世界へ翔くトップアスリート・グローバル人材の育成」を教育理念として掲げ、競技力の向上だけでなく、自立した社会人として必要な資質や能力の育成を重視している学校である。学校では、野球・ゴルフ・

ボウリング・卓球・陸上を強化指定競技に定め専門性の高い指導体制を整備するとともに、普通教科の授業や英語教育、ICT教育、キャリア教育にも力を入れ、生徒一人ひとりの将来を見据えた教育を実践している。

説明では、競技成績のみを追い求めるのではなく、「感謝の心」「礼儀」「主体性」「考える力」を育てることを教育の柱としているとのことだった。また、寮生活を通じて規律ある生活習慣や協調性、責任感を養うなど、学校生活全体を教育の場として捉えている点が特徴的であった。

3 視察内容

学院長から教育方針や学校運営、競技指導について説明を受け、意見交換を行い、その後施設見学を行った。

特に印象的であったのは、「選手を育てる前に人を育てる」という考え方が学校全体に浸透していたことである。挨拶や時間厳守、整理整頓など日常生活の基本を徹底することが競技力向上にもつながるとの考えのもと「凡事徹底」を教育の基本としていた。

また、授業ではICT機器を積極的に活用し、生徒が主体的に学ぶ環境づくりが進められていた。さらに、英語教育や資格取得支援、大学進学・就職支援などスポーツ以外の進路にも対応した教育体制が整えられており、多様な進路選択を可能としていた。

競技指導においては、監督やコーチが一方的に指示を出すのではなく、生徒自身が状況を分析し、自ら考え判断して行動する力を育成する指導が行われていた。このような主体性を重視する教育は、競技成績だけでなく社会に出てから必要となる課題解決能力やコミュニケーション能力の育成にもつながるものと感じた。

4 所感

今回の視察では、スポーツ強豪校というイメージだけでなく、「教育機関」としての役割を強く意識した学校運営が行われていることを実感した。

葉山町が進める教育改革や部活動の地域移行、さらには児童・生徒の健全育成を推進する上で有益であり、今後の政策立案及び教育行政に活かしていく必要があると考えている。



◎沖縄県北谷町

電子回覧板（デジタル情報発信）の運用について

1 視察目的

町内会・自治会加入率の低下や住民のライフスタイルの変化に伴い、紙媒体による回覧板だけでは行政情報が十分に届かないケースが増えている。このため ICT を活用した情報発信の現状と課題、町内会・自治会との連携方法、災害時の情報伝達体制などを調査し、葉山町における行政サービス向上の参考とすることを目的として視察を実施した。

2 視察概要

北谷町では、町公式 LINE を活用し、行政情報やイベント情報、防災・防犯情報、各種手続き案内などをタイムリーに配信している。住民が必要な情報を分野別を選択して受け取ることができる仕組みを採用し、紙媒体だけでは届きにくい世代への情報提供を強化している。（これは、葉山町と同様であった。）

メイン事業は、一斉情報配信システムであり、津波警報を機会に導入したとのことだった。そこから「住民向け情報配信アプリ」や「学校・保護者連絡網アプリ」、「自治会連絡網アプリ」に配信されるシステムとなっている。現在の登録者は、10%程度であった。

・視察で確認した主な事項

1. 電子回覧板導入の経緯
2. システム導入及び運用に係る費用
3. 利用登録者数及び普及促進策
4. 自治会との役割分担
5. 災害時の情報発信体制
6. 高齢者などデジタル活用が困難な方への配慮
7. 紙媒体の回覧板との併用方法
8. 今後の機能拡充及び DX 推進の方向性

3 所感

住民が必要な情報だけを選択して受信できることにより、情報の見逃し防止や利便性向上につながっている。また、防災情報など緊急性の高い情報を迅速に届けられることは、災害対応力の向上にも大きく寄与するものと感じた。

一方で、高齢者やスマートフォンを利用していない住民への配慮から、紙媒体を直ちに廃止するのではなく、当面は併用しながら段階的にデジタル化を進めている点は、参考になった。

電子回覧板は、行政の DX 推進だけでなく、災害時の迅速な情報伝達、住民サービスの向上、行政コストの削減にもつながる可能性があり、葉山町においても導入に向けた調査・検討を進める価値があると考ええる。



以上 伊東圭介

視察日時 7月8日 沖縄県 名桜大学

名桜大学は1994年（平成6年）沖縄県名護市に国際学部1学部、3学科（国際文化学科・経営情報学科・観光産業学科）の単科大学を開校。以後2001年に国際文化研究学科を新設しその後他の学部も増やしている。

今回の視察目的は沖縄県全体が観光地として日本各地、世界中の人々が訪れ、親しまれている。財政的見地でもサービス観光業が沖縄全体の経済を支えている現実のなか（防衛や基地としての位置づけイデオロギーの視察ではない）こうした経済活動を支える人材育成に興味があり視察を行った。

名桜大学は、1994年（平成6年）平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成を見学の精神としている。資料によれば、沖縄県と名護市を中心とする北部12市町村により設立された沖縄県唯一の公設民営として生まれ、2010年「平和・自由・進歩」の建学精神をそのまま継承され公立大学となった。

同僚の荒井議員がサラリーマンとして働いていた、沖縄勤務時の友人で同業者であった、元沖縄ラグナホテル副支配人の東恩納盛雄氏が転職後に名桜大学国際観光産業学科教授として勤務していることが分かり視察した。

国際間のボーダレス化、高度情報化社会、異文化の理解、国際性豊かな人材育成、特に沖縄は諸外国との人的物質的交流が盛んな土地で、あらゆる分野で活躍するための語学力と国際文化についての深い理解力が求められること。

東恩納氏は名桜大学勤務8年目となり、琉球大学等にも講演されたことや経済活動、特にサービス業に携わる職種では、各国の方々と人種や年齢にかかわらずコミュニケーション能力向上が大切とのこと。話し方や雰囲気全体がソフトで初対面と感じさせない。荒井議員がいたせいかもしれないが、以前からの知り合いのような接し方が印象に残った。ちなみに学生と企業コラボした製品がファミリーマート商品になったことも話していた。





以上 笠原俊一

【名桜大学】

沖縄県名護市にある公立大学 名桜大学にエンタメ教育について伺いました。葉山中学校のOBが3人在学しています。

お話を伺ったのは東恩納教授。国際学部 国際観光産業学科を担当されています。お互いのホスピタリティについて、熱い思いでとてもワクワクします。

視察した前日の琉球新聞にも紹介されている、沖縄ファミリーマート「地域密着プロジェクト」の、お菓子パッケージのデザインも面白いです。

3月末まで、葉山町スキー協会に在籍していた海仲間も、こちらの大学で教授をしてまいりました。何か葉山とのご縁を感じます。



【エナジック高校】

創部３年で選抜甲子園出場を果たしノーサイン野球で旋風を巻き起こした、エナジックスポーツ高等学院を視察。一昨年、１期生の龍山暖選手が埼玉西武ライオンズに６位指名を受け入団。この春も鮮烈な甲子園デビューを果たした学校。今夏の沖縄大会では決勝で惜しくも甲子園の切符を逃してしまい残念でした。

授業・練習試合・そして寮生活など学院長に伺いました。野球部以外にもゴルフ部・駅伝部・卓球部・ボーリング部のこれからの活躍に注目です。



【北谷町 町内会・自治会の電子回覧について】

北谷町に視察に伺いました。北谷町が電子回覧を導入するにあたっての経緯として、2025年４月３日に津波警報があり町民にお知らせするのに、とても手間がかかってしまったこと。このとき海岸線から山に向かう４本の道路が渋滞・・・。

このことにより、米軍基地を通して避難できるように、町と米軍とで防災協定を締結することができました。また防災・防犯情報一斉配信と学校・自治会向け情報共有アプリの導入となったとのことです。

- ・事業費は12,397千円で1/2は補助金
- ・電子回覧のアプリは導入しているけれど、現在は使われてはいない。
- ・すでに自治会ではLINEを利用してアプリまで手が回らないという声があり、棲み分けが必要となってくる。

今後、自治会と協議しながら運用ルールを整備していくそうです。

町内会・自治会の組織率の向上のためにも、電子回覧板は必要と考えます。

以上 土佐 洋子

